

# ぼくが生きてる、 ふたつの世界

伝えられない想いが  
あふれます。



監督: 呉美保 主演: 吉沢亮 脚本: 港岳彦

忍足亜希子 今井彰人 ユースケ・サンタマリア 烏丸せつこ でんでん

原扶貴子 山本浩司 河合祐三子 長井恵里

原作: 五十嵐大「ぼくが生きてる、ふたつの世界」(幻冬舎刊) 企画・プロデュース: 山国秀幸

製作: 「ぼくが生きてる、ふたつの世界」製作委員会(ワンダーラボ/トリノ/博報堂DY/エック/カキガ/伊西日本/コミュニケーションズ/アトビー/アイ/アミューズ/河北新報社/東日本放送/シネマ) 助成:

文化庁文化芸術振興費補助金(映画創造活動支援事業) 独立行政法人日本芸術文化振興会

©五十嵐大/幻冬舎 ©2024「ぼくが生きてる、ふたつの世界」製作委員会 配給: キャガ GAGA★ gaga.ne.jp/FutatsunoSekai/

母に背を向け、故郷を離れたぼく——。

繊細に紡がれる、きこえない母ときこえる息子、そしてあなたの物語。

GAGA★  
GENDA GROUP



親子の物語が、そしてひとりのコーダの心の軌跡が、点描のように紡がれていく……。監督は、本作が9年ぶりの長編作品となる、『そのみにて光輝く』『きみはいい子』の呉美保。作家・五十嵐大氏の自伝的エッセイを原作に、脚本は『正欲』の港岳彦。吉沢亮が、「きこえる世界」と「きこえない世界」を行き来しながら生きる主人公を体現、自身の居場所を見出していく若者の心を繊細に演じた。母・明子役には、ろう者俳優として活躍する忍足亜希子。

やがて母への想いが観る者の胸にも静かに温かく満ちていく、心に響く映画が誕生した。

\*コーダ：きこえない、またはきこえにくい親を持つ聴者の子供

## 母と息子、切なくも心に響く家族の物語

Story

宮城県の小さな港町、五十嵐家に男の子が生まれた。祖父母、両親は、“大”と名付けて誕生を喜ぶ。ほかの家庭と少しだけ違っていったのは、両親の耳がきこえないこと。幼い大に

としては、大好きな母の“通訳”をすることも“ふつう”の楽しい日常だった。しかし次第に、周りから特別視されることに戸惑い、苛立ち、母の明るささえ疎ましくなる。心を持って余したまま20歳になり、逃げるように東京へ旅立つ大だったが……。



映画「ぼくが生きてる、ふたつの世界」本山町上映会（聴覚障害者用字幕付）

日時 2025年 **3月9日** (日) ①午前10:00開場 上映：午前10:30～12:15  
②午後 2:30開場 上映：午後 3:00～ 4:45

※上映時間：105分

会場 **本山町プラチナセンター 文化ホール** (長岡郡本山町本山569-1)

前売券 一般・シニア・大学生 **1,200** 円 【前売券販売所】 大原文学館／本山町プラチナセンター／森文具店／高石商店

当日券 一般・シニア 1,500円／大学生 1,300円／小中高生 800円 ※未就学児無料

主催 本山町プラチナセンター 共催 嶺北映画クラブ お問い合わせ 本山町プラチナセンター (0887-76-2084)